



| | | | | | | | | | |
|-----------|--------|-----|-------------------|-------------------|--|----------|----------|----|-----------|
| 出力尺 | 1/600 | 精度分 | | 座標系 番号又は 記号 | | 分類 | 地図に準ずる図面 | 種類 | 旧土地台帳附属地図 |
| 作成 年月日 | 昭和2年9月 | | 備付 年月日 (原図) | | | 補記 事項 | | | |

総務文教分科会委員長報告

(R4.3.17)

総務文教分科会に付託されました、令和4年度一般会計、曾我部山林事業特別会計、及び各財産区特別会計の予算議案について、審査の経過概要と、その結果を報告いたします。

本分科会は、去る3月10日から17日までの6日間にわたり、各担当部課長等の出席を求め、限られた財源の中で、市民が期待し、真に市民福祉を増進するための予算となっているのかを主眼におき、^{しん}予算書及び施策の概要報告書等、関係書類をもとに、^{しゅがん}現地視察も実施する中で、慎重に審査を行いました。

まず、第1号議案、令和4年度一般会計予算の本分科会所管分についてであります。

令和4年度の一般会計予算は、新型コロナウイルスにより価値観が大きく変化した今、地球規模や広域的に考え判断し、地元である「亀岡」を大切に、「主役は市民」市民本位のまちづくりを進めていくため、対前年度比5.1%の増額予算が編成されたものであります。

予算審査の結果は、次に述べるとおりです。

歳入面では、市税においては、感染対策に^{ばんぜん}万全を期しながら、社会経済活動を継続していく中で、景気が持ち直していくことが見込まれるため、市税全体として、対前年度比1.7%増額の99億3,500万円となっています。

また、国の地方財政計画において、地方交付税が増加されていることなどを考慮し、地方交付税の増額を見込むとともに、譲与税や交付金、ふるさと力向上寄附金の増収を見込み、また、それぞれの事業における特定財源の確保など、できる限りの収入確保に努められています。

歳出面では、新型コロナウイルス感染症対策に^{ばんぜん}万全を期す中で、市民生活や地域経済を守り抜き、ポストコロナ時代に^{きず}築く「新しい日常」を積極的に展開するとともに、将来にわたって持続可能な財政運営を図ることを基本に、市民に^{しん}真に重要かつ優先度の高い事業について、予算が計上されています。

今後も、事業の^{しゅしゃせんたく}取捨選択とともに、将来に渡って持続可能で健全な財政運営を望むものであります。

次に、歳出面での具体的な予算内容について、令和4年度一般会計予算の本分科会所管分歳出は、議会費、総務費、民生費、消防費、教育費、^{こうさいひ}公債費に及んでおります。

その主な内容は、

- ・ふるさと納税制度を活用した、本市の魅力のPR、及び返礼品の発注等を通じた地域活性化の推進、
- ・^{せんせい}パートナーシップ^{ふきゆう}宣誓制度の普及やシンボルマークを活用した啓発など、多種多様な人たちの人権と個性が尊重される社会の推進、
- ・人権を守り^{はぐく}育むコミュニティ拠点施設である東部児童館の建設、
- ・さらなる移住者^{かくとく}獲得と定住促進を図るための支援制度の推進、
- ・近年、多発、^{げきじんか}激甚化する自然災害に備えるため、防災士養成事業、体験型防災教育事業などの開催や、安心して避難ができる車中泊避難場所の整備、
- ・仕事と子育ての両立支援と放課後児童健全育成の推進、
- ・ICT教育を効果的に推進するため、全小学校・義務教育学校に人型ロボット（Pepper）の配置、
- ・教育環境の整備・充実を図るための、校舎の大規模改修工事、
- ・^{けいねんれっか}経年劣化に伴い修繕が必要なギャラリーかめおかの、長寿命化対策の実施
- ・亀岡市デジタルファースト宣言に基づく、自治体^{ディーエックス}D Xの推進、

などでありました。

採決に先立ち、セーフコミュニティ推進事業経費のセーフコミュニティ国内認証制度、災害対策経費の野水駐車場車中泊整備、人権啓発推進経費の亀岡市人権条例（仮称）制定、みらい教育リサーチセンター事業経費の^{ひとがた}人型ロボットについて、必要性のある妥当な^{せさく}施策の経費とは言えないものであり、もっと^{しん}真に緊急的に必要な事業に予算を使ってほしい、野水駐車場車中泊整備の目的、積算根拠、運用が不明瞭であり、計画に疑問がある。総事業費1億6千万円余りの事業が動いていくので反対するとの反対討論があり、一方で、おおむね了とする。ふるさと納税を原資とする基金繰入金^{こうきゅうてき}を活用されており、ふるさと納税は恒久的なものではないので、新たな財源確保を含め、最小の経費で最大の効果を上げてほしいとの賛成討論がありました。

採決の結果は、^{かひ}可否同数となり、委員長採決により、原案可決すべきものと決定しました。

次に、第7号議案、令和4年度曾我部山林事業特別会計予算であります。山林等の管理に要する所要の予算計上であり、別段異論なく、採決の結果は、全員をもって原案可決すべきものと決定しました。

次に、第11号議案から第40号議案までの、令和4年度亀岡財産区ほか29財産区特別会計予算であります。関係地域における自治振興のための助成金、山林等の管理に要する財産管理経費等の予算計上であり、別段異論なく、採決の結果は、全30財産区特別会計いずれも全員をもって原案可決すべきものと決定しました。

以上、簡単であります。本分科会の報告といたします。